

# 四半期報告書

(第54期第2四半期)

自 平成23年7月1日  
至 平成23年9月30日

**株式会社昭和真空**

神奈川県相模原市中央区田名3062番地10

# 目 次

頁

表 紙

## 第一部 企業情報

### 第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 ..... 1
- 2 事業の内容 ..... 1

### 第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク ..... 2
- 2 経営上の重要な契約等 ..... 2
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 ..... 2

### 第3 提出会社の状況

#### 1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 ..... 4
- (2) 新株予約権等の状況 ..... 4
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 ..... 4
- (4) ライツプランの内容 ..... 4
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 ..... 4
- (6) 大株主の状況 ..... 5
- (7) 議決権の状況 ..... 6

#### 2 役員の状況 ..... 6

### 第4 経理の状況 ..... 7

#### 1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 ..... 8
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ..... 10
  - 四半期連結損益計算書 ..... 10
  - 四半期連結包括利益計算書 ..... 11
- (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 ..... 12

#### 2 その他 ..... 17

## 第二部 提出会社の保証会社等の情報 ..... 18

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年11月11日
【四半期会計期間】	第54期第2四半期（自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日）
【会社名】	株式会社昭和真空
【英訳名】	SHOWA SHINKU CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小俣 邦正
【本店の所在の場所】	神奈川県相模原市中央区田名3062番地10
【電話番号】	042（764）0321（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 村岡 眞史
【最寄りの連絡場所】	神奈川県相模原市中央区田名3062番地10
【電話番号】	042（764）0385
【事務連絡者氏名】	取締役 村岡 眞史
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第53期 第2四半期連結 累計期間	第54期 第2四半期連結 累計期間	第53期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高（千円）	4,976,052	3,380,279	9,227,481
経常利益又は経常損失（△） （千円）	184,854	△42,726	225,513
四半期（当期）純利益又は四半期純 損失（△）（千円）	113,357	△22,173	180,565
四半期包括利益又は包括利益 （千円）	81,243	△38,248	142,578
純資産額（千円）	6,993,192	6,954,650	7,054,509
総資産額（千円）	13,420,025	11,731,270	11,860,915
1株当たり四半期（当期）純利益金 額又は1株当たり四半期純損失金額 （△）（円）	18.41	△3.60	29.32
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	52.1	59.3	59.5
営業活動による キャッシュ・フロー（千円）	1,361,515	296,519	640,176
投資活動による キャッシュ・フロー（千円）	43,476	△5,656	94,328
財務活動による キャッシュ・フロー（千円）	△1,553,176	△220,719	△2,345,805
現金及び現金同等物の四半期末（期 末）残高（千円）	2,443,530	1,044,002	971,738

回次	第53期 第2四半期連結 会計期間	第54期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額（円）	21.83	2.94

（注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 第53期第2四半期連結累計期間及び第53期の潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため、第54期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

4. 第53期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年6月30日）を適用し、遡及処理しております。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新興国における需要拡大等により一部回復の兆しが見られるものの、長期化する円高、企業の設備投資の縮小、資源及び原材料価格の高騰、欧米景気の減速、並びに雇用環境に対する先行き不安を背景とした個人消費の低迷などにより引き続き厳しい状況で推移しました。また、平成23年3月に発生した東日本大震災に伴う供給制約は解消に向かっているものの引き続き先行きは不透明な状況にありました。

当社グループを取り巻く経営環境を見ると、自動車産業がサプライチェーンの復旧により回復基調を示してきているものの、水晶デバイス業界や電子部品業界における設備投資に対する動きは慎重なまま推移しました。

こうした環境の中、当社グループは、中国、台湾などの海外市場を中心に積極的に受注、販売活動を展開してまいりましたが、厳しい状況が続きました。

生産面では、上海子会社を中心にグローバル調達を継続して推進し、原価低減に努めました。

損益面では、固定費削減に引き続き努めたものの、売上絶対量が足りずに固定費をカバーすることができませんでした。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、受注高32億72百万円（前年同四半期比28.5%減）、売上高33億80百万円（同32.1%減）となりました。

損益につきましては、経常損失42百万円（前年同四半期は経常利益1億84百万円）、四半期純損失22百万円（前年同四半期は四半期純利益1億13百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ①真空技術応用装置事業

真空技術応用装置事業の業績につきましては、受注高は28億2百万円（前年同四半期比30.4%減）、売上高は29億10百万円（同34.2%減）、セグメント利益は3億8百万円（同44.3%減）となりました。

業界別の状況は以下のとおりです。

#### （水晶デバイス装置）

水晶デバイス業界では、主に最新装置の営業活動に注力してまいりましたが、引き続き設備投資に対する動きは鈍く、受注・売上ともに厳しい状況となりました。

水晶デバイス装置の受注高は13億83百万円（前年同四半期比51.9%減）、売上高は10億25百万円（同71.4%減）となりました。

#### （光学装置）

光学業界では、海外市場を中心に積極的に受注活動を推進してまいりました。また、売上に関しては概ね順調に推移しました。

光学装置の受注高は4億68百万円（前年同四半期比56.2%増）、売上高は12億7百万円（同349.9%増）となりました。

#### （電子部品装置・その他装置）

電子部品業界では、水晶デバイス業界同様設備投資に対する動きは慎重で受注・売上ともに厳しい状況になりました。

電子部品装置・その他装置の受注高は9億51百万円（前年同四半期比11.9%増）、売上高は6億78百万円（同17.7%増）となりました。

## ②サービス事業

サービス事業につきましては、西日本拠点や上海子会社を中心として、修理・改造などの引き合いに積極的に対応してまいりました。さらに、株式会社エフ・イー・シーが製造・販売する歯のない歯車「マグトラン」も積極的な営業活動を推進してまいりました。しかしながら、装置販売低迷の影響もあり苦戦いたしました。

この結果、売上高は4億69百万円（前年同四半期比15.0%減）、セグメント利益は75百万円（同28.0%減）となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して72百万円増加し、10億44百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は2億96百万円（前年同四半期比78.2%減）となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失35百万円、未払消費税等の減少94百万円、たな卸資産の増加4億2百万円などによる使用はあったものの、売上債権の減少6億21百万円、仕入債務の増加2億86百万円などによる獲得があったことによるものです。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金支出は5百万円（前年同四半期は43百万円の収入）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出5百万円などがあったことによるものです。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金支出は2億20百万円（前年同四半期比85.8%減）となりました。これは主に社債発行による収入7億82百万円があったものの、社債償還による支出10億円があったことによるものです。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

## (4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1億58百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	13,800,000
計	13,800,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,499,000	6,499,000	大阪証券取引所 JASDAQ市場 (スタンダード)	単元株式数 100株
計	6,499,000	6,499,000	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	—	6,499,000	—	2,177,105	—	2,553,975

## (6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
株式会社アルバック	神奈川県茅ヶ崎市萩園2500	1,329	20.45
小俣 邦正	神奈川県相模原市中央区	567	8.73
有限会社小俣興産	神奈川県相模原市中央区陽光台3-7-11	381	5.86
昭和真空従業員持株会	神奈川県相模原市中央区田名3062-10	290	4.47
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	240	3.69
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1-6-6 日本生命証券管理部内	144	2.21
小俣 佳子	神奈川県相模原市中央区	120	1.84
小俣 輝明	神奈川県相模原市中央区	120	1.84
小俣 みつこ	神奈川県相模原市中央区	120	1.84
株式会社みずほ銀行 (常任代理人 資産管理サービ ス信託銀行株式会社)	東京都中央区晴海1-8-12 晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ棟	96	1.47
株式会社横浜銀行 (常任代理人 資産管理サービ ス信託銀行株式会社)	東京都中央区晴海1-8-12 晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ棟	96	1.47
計	—	3,505	53.93

(注) 上記のほか、自己株式が340千株あります。



(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 340,200	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 6,157,700	61,577	—
単元未満株式	普通株式 1,100	—	—
発行済株式総数	6,499,000	—	—
総株主の議決権	—	61,577	—

② 【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
株式会社昭和真空	神奈川県相模原市中央区 田名3062-10	340,200	—	340,200	5.23

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	912,108	986,790
受取手形及び売掛金	3,774,725	3,153,324
有価証券	79,863	78,653
商品及び製品	9,796	9,384
仕掛品	1,569,691	1,930,135
原材料及び貯蔵品	250,678	293,235
繰延税金資産	208,871	230,308
その他	52,504	135,352
貸倒引当金	△1,827	△1,747
流動資産合計	6,856,411	6,815,437
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,088,689	1,053,645
機械装置及び運搬具（純額）	89,092	72,983
土地	3,559,977	3,559,977
その他（純額）	34,476	48,290
有形固定資産合計	4,772,235	4,734,897
無形固定資産		
のれん	3,461	—
その他	95,314	80,994
無形固定資産合計	98,775	80,994
投資その他の資産		
投資有価証券	110,940	77,625
その他	102,274	102,047
貸倒引当金	△79,722	△79,731
投資その他の資産合計	133,492	99,941
固定資産合計	5,004,504	4,915,833
資産合計	11,860,915	11,731,270

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,729,350	2,036,505
短期借入金	—	250,000
1年内返済予定の長期借入金	700,380	386,310
1年内償還予定の社債	1,000,000	—
未払法人税等	29,629	14,478
賞与引当金	140,950	125,705
役員賞与引当金	18,000	—
製品保証引当金	107,000	82,000
工事損失引当金	15,500	51,900
その他	332,911	182,591
流動負債合計	4,073,722	3,129,490
固定負債		
社債	—	800,000
長期借入金	61,410	200,000
退職給付引当金	491,911	497,832
繰延税金負債	20,099	7,032
その他	159,262	142,265
固定負債合計	732,683	1,647,129
負債合計	4,806,405	4,776,620
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,177,105	2,177,105
資本剰余金	2,753,975	2,753,975
利益剰余金	2,451,129	2,367,367
自己株式	△278,068	△278,091
株主資本合計	7,104,140	7,020,355
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,753	△11,574
為替換算調整勘定	△58,383	△54,130
その他の包括利益累計額合計	△49,630	△65,705
純資産合計	7,054,509	6,954,650
負債純資産合計	11,860,915	11,731,270

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
売上高	4,976,052	3,380,279
売上原価	3,979,915	2,708,135
売上総利益	996,136	672,144
販売費及び一般管理費	※ 792,921	※ 683,868
営業利益又は営業損失(△)	203,214	△11,724
営業外収益		
受取利息	1,569	710
受取配当金	842	243
受取賃貸料	10,139	10,352
助成金収入	184	—
作業屑等売却益	1,668	253
その他	9,344	1,637
営業外収益合計	23,748	13,197
営業外費用		
支払利息	26,966	15,727
売上債権売却損	10,339	9
社債発行費	—	17,086
その他	4,803	11,377
営業外費用合計	42,108	44,200
経常利益又は経常損失(△)	184,854	△42,726
特別利益		
固定資産売却益	30	—
固定資産受贈益	—	7,082
特別利益合計	30	7,082
特別損失		
固定資産除却損	—	104
特別損失合計	—	104
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	184,884	△35,748
法人税、住民税及び事業税	3,929	7,862
法人税等調整額	67,598	△21,437
法人税等合計	71,527	△13,574
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	113,357	△22,173
四半期純利益又は四半期純損失(△)	113,357	△22,173

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失 (△)	113,357	△22,173
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△18,824	△20,328
為替換算調整勘定	△13,289	4,253
その他の包括利益合計	△32,113	△16,074
四半期包括利益	81,243	△38,248
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	81,243	△38,248

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	184,884	△35,748
減価償却費	95,748	83,410
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,333	△94
退職給付引当金の増減額(△は減少)	36,113	5,920
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	—	△18,000
賞与引当金の増減額(△は減少)	42,864	△15,245
製品保証引当金の増減額(△は減少)	21,000	△25,000
工事損失引当金の増減額(△は減少)	8,300	36,400
受取利息及び受取配当金	△2,411	△954
支払利息	26,966	15,727
売上債権の増減額(△は増加)	167,238	621,886
たな卸資産の増減額(△は増加)	79,091	△402,131
未収消費税等の増減額(△は増加)	—	△30,366
仕入債務の増減額(△は減少)	799,894	286,436
未払消費税等の増減額(△は減少)	△2,140	△94,602
その他	△66,424	△95,055
小計	1,392,458	332,581
利息及び配当金の受取額	2,484	959
利息の支払額	△25,471	△16,507
法人税等の支払額	△7,955	△20,513
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,361,515	296,519
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△33,753	△1,207
定期預金の払戻による収入	104,149	—
有形固定資産の取得による支出	△26,872	△5,583
有形固定資産の売却による収入	927	—
無形固定資産の取得による支出	△3,642	△231
その他	2,667	1,366
投資活動によるキャッシュ・フロー	43,476	△5,656
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	800,000	1,000,000
短期借入金の返済による支出	△400,000	△750,000
長期借入れによる収入	—	200,000
長期借入金の返済による支出	△1,875,480	△375,480
社債の発行による収入	—	782,913
社債の償還による支出	—	△1,000,000
自己株式の取得による支出	—	△23
配当金の支払額	△61,490	△61,182
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△16,206	△16,947
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,553,176	△220,719
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4,587	2,121
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△152,772	72,264
現金及び現金同等物の期首残高	2,596,303	971,738
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 2,443,530	* 1,044,002

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間  
(自 平成23年4月1日  
至 平成23年9月30日)

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。



【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
受取手形裏書譲渡高 7,120千円	受取手形裏書譲渡高 3,772千円

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 給料及び手当 193,391千円 賞与引当金繰入額 56,345千円 退職給付費用 16,856千円 研究開発費 171,410千円	※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 給料及び手当 165,386千円 賞与引当金繰入額 37,664千円 退職給付費用 11,466千円 研究開発費 158,677千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年9月30日現在) 現金及び預金勘定 1,557,814千円 有価証券勘定 979,250千円 計 2,537,065千円 預入期間が3ヶ月を超える定期 219,335千円 預金、定期積金 2,317,730千円 現金及び現金同等物 2,443,530千円	※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年9月30日現在) 現金及び預金勘定 986,790千円 有価証券勘定 78,653千円 計 1,065,444千円 預入期間が3ヶ月を超える定期 219,335千円 預金、定期積金 846,109千円 現金及び現金同等物 1,044,002千円

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	61,588	10	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金

II 当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	61,588	10	平成23年3月31日	平成23年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	真空技術応用装置事業	サービス事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	4,423,764	552,287	4,976,052
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10,780	—	10,780
計	4,434,544	552,287	4,986,832
セグメント利益	552,830	105,394	658,225

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	658,225
のれんの償却額	△3,461
全社費用（注）	△451,548
四半期連結損益計算書の営業利益	203,214

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	真空技術応用装置事業	サービス事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	2,910,756	469,522	3,380,279
セグメント間の内部売上高 又は振替高	26,059	10,273	36,333
計	2,936,816	479,795	3,416,612
セグメント利益	308,036	75,865	383,901

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	383,901
のれんの償却額	△3,461
全社費用（注）	△392,164
四半期連結損益計算書の営業損失（△）	△11,724

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)	18円41銭	△3円60銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額(△)(千円)	113,357	△22,173
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額(△)(千円)	113,357	△22,173
普通株式の期中平均株式数(株)	6,158,852	6,158,767

(注) 前第2四半期連結累計期間に係る潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

当第2四半期連結累計期間に係る潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月11日

株式会社昭和真空

取締役会 御中

## 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鈴木 義則 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大和 哲夫 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社昭和真空の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社昭和真空及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。